

「新未来創造部会」（平成28年12月5日）における委員意見への対応内容

番号	委員名 (御発言順)	意見・提言の内容	改善見直 (案) 番号	総合計画 (冊子) ページ	対応内容（今後の方針等）	部局
1	小田委員	【新次元林業プロジェクトについて】 数値目標ありきでやっていくのではなく、中小企業に配慮する部分も持っていたきたい。	—	112	本県では、平成17年度から実施している林業プロジェクトにおいて、林業・木材産業の大部分を占める中小零細企業・事業体と共に県産材の生産・消費の向上に努めてきており、その結果、生産量はこの10年間で倍増している。 現在、展開中の「新次元林業プロジェクト」においても、これまでと同様に、中小零細企業はもとより、新たに起業する方への支援にもしっかりと取り組んで参ります。	農林
2	小田委員	【脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例について】 「脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」が制定され、県内企業が対応していくことは重要だが、啓発だけでなく、もう少し踏み込んだ具体的な施策を実施してはどうか。	新規 (P. 43)	—	県内企業の皆様に脱炭素社会の実現に向けた取組みを促進していただくには、温室効果ガス排出削減の努力の見える化が非常に重要と考えていることから、「脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」において、積極的に温室効果ガスの削減に取り組む企業を公表するとともに、先進的な取組みや削減効果の高い取組みを行う企業について、表彰する顕彰制度を設けることとしている。 さらに、温室効果ガス排出量の削減に関する優良な取組みについて事例収集を行い、徳島版ロールモデルとして広く情報発信するとともに、事例発表の機会を設けることとしており、県内企業の皆様の取組みをしっかりと後押しして参りたい。 委員からのご提言を踏まえて行動計画の見直しを検討し、『「気候変動アワード」の表彰総数』、『徳島版ロールモデルの発表数』と記載することとした。	県民
3	小田委員	【自転車利用促進に関する施策について】 自転車道の整備を全県的に考えていただきたい。 また、自転車の利用促進に関する施策を盛り込んでいってはどうか。	—	215	「自転車をつながる人・まち」づくりプロジェクトを推進するため、「自転車利用促進協議会」において、サイクルスポーツを通じた徳島の新たな魅力創出とともに、県民の運動実施率向上や健康増進などに繋がる方策等を検討するなど、「自転車王国とくしま」づくりに向けた取組みを実施している。 また、関係部局と連携してサイクリングルートの路面表示や看板の設置を推進している。	県民 県土

番号	委員名 (御発言順)	意見・提言の内容	改善見直 (案) 番号	総合計画 (冊子) ページ	対応内容（今後の方針等）	部局
4	小田委員	<p>【インターンシップについて】 高校生におけるインターンシップについて、2年生だけが行っていると思うが、2年生だけでよいのか。職業観の育成等の視点もあることから、徳島ならではの教育の振興ということで、どうしていかか考えていただきたい。</p>	—	—	<p>県内の県立高校におけるインターンシップについては、学校の状況に応じて全学年で実施している。職業観の育成等の視点からの「職場体験・インターンシップ」実施の手引を作成し、各学校と受入企業において活用いただくことにより、一層のインターンシップの充実に努めているところ。 また、小中学校においては、児童生徒やその保護者を対象に、県内企業の魅力を体感する「企業見学バスツアー」を実施し、発達段階に応じた職業観の育成にも努めている。 今後ともインターンシップ等の受入企業の開拓と内容の充実に努めるなど、一人でも多くの児童生徒が体験できるように推進して参りたい。</p>	教育
5	小田委員	<p>【女性職員の採用について】 女性職員の採用数を増やすべきではないか。</p>	—	—	<p>本県においては、平成24年度以降、6年連続で100人以上の新規採用職員枠を設け、積極的な採用に努めているところ。新規採用職員のうち、女性の占める割合は、平成27年4月採用実績で「40.3%」、平成28年4月採用実績で「49.5%」となっており、約半数が女性となっている。また、年齢別に女性の占める割合を見ると、50歳以上で「14.5%」、40歳代で「28.9%」、30歳代で「33.6%」、20歳代で「45.8%」と、年齢が若くなるにつれて女性の割合が高くなっている。今後も、積極的な採用に務めることで、しなやかでバランスのとれた組織・体制づくりを行って参りたい。</p>	経営
6	黒田委員	<p>【観光ボランティアについて】 再雇用制度ができてからボランティアの人数の伸び率が落ちたと感じる。そういった中で、活動の場を確保していただけることは大変ありがたいことであり、ぜひお願いしたい。 また、大会や学会等においても活躍の場を作っていただきたい。</p>	441	163	<p>シルバー大学院「歴史文化講座」卒業生による「観光ボランティアガイド」について、引き続き、関係機関・団体等との連携により、活躍の場の確保に努めて参りたい。</p>	保健

番号	委員名 (御発言順)	意見・提言の内容	改善見直 (案) 番号	総合計画 (冊子) ページ	対応内容（今後の方針等）	部局
7	黒田委員	【外国クルーズ客船の出迎えについて】 外国クルーズ客船を地元の方が出迎える際に、外国語のプラカード等を掲げてくれているが、表現が間違っているものがあった。 事前に例文等を案内しておくとのよいのではないか。	605	204	増加する外国人旅行者への言語面での対応のため、県では、ホテルや旅館等の施設の多言語表記に対する補助を行うとともに、ボランティアによる善意通訳組織（徳島GGクラブ）を立ち上げ、当面は県が事務局を担い、活動を支援しているところ。 今後は、いただいたご意見も参考に、来県された外国人旅行者の皆様へ本県での観光をより楽しんでいただけるよう、市町村など関係機関とも連携の上、言語面での支援に取り組んで参ります。	商工
8	真鍋委員	【とくしまジョブステーションについて】 とくしまジョブステーションについて、知らない方が多いのではないか。	73	86	ジョブステーションについて、これまでもホームページ等による広報に取り組んできたところですが、認知度の向上を図るため、県内外で開催するイベントにおけるリーフレット配布や、UIJターンの相談が寄せられる県外事務所における情報提供など、様々な機会に周知を図ることで、利用の拡大に努めて参ります。	商工
9	真鍋委員	【教育について】 雇用や移住者の増加を目指すにあたり、徳島の教育がしっかりしているという基盤がないと、家族を引き連れて来てくれないのではないか。雇用と教育はセットで考える必要があると思う。	—	—	本県の学力向上に向けた取組みの抜本的な改善を目指し、平成27年2月に「徳島『確かな学力』育成プロジェクト」を策定した。 本県の児童生徒の課題解決に向けて、県内4地域において研究拠点校を指定し、市町村教育委員会、大学等との連携を密に図りながら、学力向上の取組みの改善・充実に取り組んでいるところ。 今後は、集中的・継続的な支援による成果を県内各地域及び学校へ広く普及するとともに、本プロジェクトの周知・徹底を引き続き図り、本県児童生徒の学力向上、学習習慣改善に向け全力で取り組んで参りたい。	教育
10	松崎委員	【ひとり親家庭における託児について】 0歳の子どもを持つ親が、就労に向けた技能習得に係る講習会等を受講できるように、託児年齢を引き下げるといったことができるとうありがたい。	—	—	県では、ひとり親家庭への就労支援の一つとして、就労に有利な資格や技能、知識を習得するため、託児付の就業支援講習会を実施している。託児年齢の引き下げについては、就業支援講習会の円滑な実施に向けた重要な課題であるため、講習会の実施主体に働きかけて参りたい。	県民

番号	委員名 (御発言順)	意見・提言の内容	改善見直 (案) 番号	総合計画 (冊子) ページ	対応内容（今後の方針等）	部局
11	松崎委員	【パーキングパーミット制度について】 双子や三つ子等の場合は、例外で利用できる期間を伸ばせるように検討いただきたい。	22	73	妊産婦の方については、産前7ヶ月から産後1年の期間、利用証を交付しており、産後の有効期間については、同制度を導入している36府県1市の中でも、出産後の体調回復に要する期間を考慮し、1年間という比較的長めの期間を定めている。台数が限られた身体障がい者等用駐車場を、歩行に困難を伴う方に利用していただくための期間を設定しているところである。 今後も、身体障がい者等用駐車場を安心して利用していただくため、パーキングパーミット制度のより良い運用に努めて参りたい。	保健
12	大森委員	【道路の路肩の整備について】 「自転車王国とくしま」ということで、自転車が通過する路肩についても整備をしていくことが重要ではないか。	—	—	これまでも、車道と一体とした舗装の状態を把握・評価することにより、計画的に舗装の修繕・改良を実施しているところであるが、今後も自転車の利用者の視点を含めた路面の維持管理を徹底して参りたい。	県土
13	植本委員	【英語表記の看板について】 地元県西部では、アジアのみならずヨーロッパからの観光客が多いが、看板を英語表記にする等の対応が必要ではないか。	—	—	これまで剣山やかずら橋などの主要観光地への英語併記の案内標識や観光マップの設置などを実施し、さらに今年度、外国人を含む登山者への安全対策として剣山や三嶺周辺の登山道に英語併記の標識を設置したところ。 引き続き、市町や観光関係団体等と連携し、外国人に分かりやすい多言語表記案内標識等の設置に取り組んで参ります。	西部
14	中村委員	【人材確保について】 優秀な人材が多く県外に流れている。数だけの問題ではなく、優秀な人材の確保も考えなければいけないのではないか。	73	86	企業のニーズに沿った人材確保の支援として、プロフェッショナル人材戦略拠点を設置し、人材のマッチングに取り組むとともに、県外からの人材確保に対する助成も併せて行っているところ。 今後とも、経済団体、金融機関、民間人材サービス業者等との連携を図りながら、県内企業が優秀な人材を確保できるよう、取り組んで参ります。	商工

番号	委員名 (御発言順)	意見・提言の内容	改善見直 (案) 番号	総合計画 (冊子) ページ	対応内容（今後の方針等）	部局
15	中村委員	【労働環境について】 中小企業は大手と比べて労働環境の整備ができていないと一般的に数字が出ており、指導も今後お願いしたい。	99	91	次世代を担う子どもたちを育てる環境を整備するため、「働きやす職場環境づくり」や「仕事と子育ての両立支援」に積極的に取り組む企業を「はぐくみ支援企業」として認証・表彰しているところ。 また、中小企業と大企業の労働者福祉の格差是正のため、勤労者福祉サービスセンターの広域化に向けた支援を実施しているところ。 今後とも、県内企業の現場の声や、女性活躍の推進に向け、県内の第一線でご活躍されている方々から御提言をいただく「働く女性応援ネットワーク会議」等の御意見を踏まえ、施策の充実を図るとともに、労働局等関係機関との連携により、働きやすい職場環境づくりに努めて参ります。	商工
16	中村委員	【外国人就労支援について】 日本語やビジネスマナー講座も大事であるが、外国人同士の交流の場づくり、日本や徳島の文化を知ってもらう機会等を提供し、精神面のケアも考慮していく必要がある。外国人をお迎えしているという視点を持って取り組まなければいけないのではないか。	—	86	本県では、就労の支援のみでなく、生活面等の支援として、相談窓口の充実、生活支援講座の開設、市町村等と連携した多言語による情報提供や、在県外国人に対する日本文化の紹介、災害時の通訳、生活相談への対応等を行う専門ボランティアの養成などを実施しております。 今後とも、本県で暮らす外国人の皆様の支援について、関係団体との連携のもと、取り組んで参ります。	商工
17	大平委員	【訪日外国人旅行者について】 災害時等における外国人旅行者への対応について、取組みを進めるべきではないか。	—	—	本県では、地域防災計画に外国人を災害時の要援護者として位置付けるとともに、観光施設・宿泊施設に対しては、観光庁がまとめた「自然災害発生時の訪日外国人旅行者への初動対応マニュアル策定ガイドライン」の普及啓発に努めているところ。 また、災害発生時に備えて、市町村やNGO団体、在住外国人等とのネットワーク会議や外国人向け防災研修会、災害発生時の通訳ボランティアを対象とした研修会の開催等に取り組んでいる。 今後とも、在住者・旅行者を問わず、災害発生時に県内に滞在する外国人の皆様への支援体制の充実・強化に取り組んで参ります。	商工
18	近藤委員	【徳島健康科学総合センターについて】 借りているだけで実際に使用していない状態が見受けられ、入居条件を見直し、起業家の方が新しく入っていきやすいような、新陳代謝が起こる仕組みを作っていくべきではないか。	—	103	徳島健康科学総合センターにおける起業家用の貸室については、1年更新、最長5年までの期限を設けて運用しているところ。また、格安で起業家同士で1室を共有するシェアードルームや、入居者でなくとも利用できる交流サロンも提供しているところ。今後とも、より多くの起業家にご利用いただき、経済の好循環につながるよう、取り組んで参ります。	商工

番号	委員名 (御発言順)	意見・提言の内容	改善見直 (案) 番号	総合計画 (冊子) ページ	対応内容（今後の方針等）	部局
19	滑川委員	【過疎地における教育について】 過疎地域での子育て施策について議論を深め、施策を推進していくべきではないか。	—	—	<p>少子高齢化、人口減少が進む地域において、小規模化する学校を存続させ、かつ、教育の質を保障するという課題解決に向けて地理的に分散した小中学校が人的・物的に連携する「チェーンスクール」と、学校・保育所・社会教育施設などを核に地域一体で学校教育内容の充実を図る「パッケージスクール」の二つの「徳島モデル」を新しい学校教育のかたちとして取り組んでいる。</p> <p>今後は、この成果を県下全域に普及することができるよう、市町村教育委員会、地域と一体となり取り組んで参りたい。</p> <p>また、放課後等において、「放課後子供教室」による学習支援やスポーツ活動や、「地域未来塾」の開設による学習習慣の確立や基礎学力の定着など、地域の方々のご協力をいただきながら、過疎地域をはじめとした様々な地域において、多様な学びの機会を提供しており、子供の郷土への愛着や豊かな心の育成を図っている。</p> <p>今後とも、学校と地域、家庭が連携し、地域ならではの教育を推進して参りたい。</p>	教育
20	滑川委員	【県政の広報について】 県民が知らない施策が多いと感じる。広報の見直しを考えてみてはどうか。	—	—	<p>県民が求める情報を正確かつ迅速に提供することが施策推進の鍵であります。各種施策の担当部局での関係者や関係団体等に対するきめ細やかな情報提供と各種広報媒体をうまく組み合わせ、担当部局と連携したより一層効果的な広報に努めて参ります。</p>	経営
21	金部会長	【県産木造住宅の輸出について】 目標数が「棟」数から「戸」数に見直した理由は何か。	226	117	<p>当初、県産材の新たな需要拡大策として、一戸建ての住宅用木材を輸出する施策に取り組み始めたが、輸出先の台湾、韓国、シンガポールでは、マンション等の共同住宅が住宅市場の大部分を占め、施主がマンション等を購入した後、現地設計者・工務店に内装を依頼する形が主流となっていることから、目標を現地の住宅事情に合わせた単位に変更するもの。</p> <p>今後は、戸建てに加え、マンションにも積極的に展開し、県産材の需要拡大に取り組んで参りたい。</p>	農林
22	金部会長	【教育ボランティアについて】 シルバー人材の活用ということで、観光ボランティアがあるが、教育ボランティアとしての活動の場についても検討いただきたい。	—	—	<p>シルバー人材の活用については、老人会やPTAを中心に、授業の補助など学校支援活動に参画いただくとともに、学校安全ボランティアとして、登下校時の見守り活動を行っていただくなど、教育分野においても活躍いただいている。</p> <p>今後とも、地域の方々のご協力をいただきながら、将来を担う子供たちの育成に取り組んで参りたい。</p>	教育